

目指す学校像	子ども一人ひとりの可能性を伸ばし、自立と社会参加を目指した力を育む学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 個別最適で一貫した指導の充実(学力向上) 2 安心・安全な学校生活のための教育体制や環境の整備(安心・安全) 3 学校と家庭、地域、関係機関と連携・協働した学校づくり(開かれた学校づくり) 4 特別支援教育の専門性を向上し、チームで取り組む人材育成(教職員の資質向上)
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年2月1日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	学力向上 (現状) ○個別の指導計画を踏まえた指導を行っている。昨年度の学校課題研究では、ICTの活用にあらずまず取り組んでみようという考えで取り組んだ。(課題) ○学校課題研究をさらに推進させ、教育活動でICTの具体的な活用に取り組む必要がある。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、学校行事等に制限がある。知的障害教育部門の開設に向けて教育活動の準備をする必要がある。	・個別最適な学びにおけるICTの活用の充実とコロナ禍での体験活動の工夫。 ・知的障害教育部門高等部の開設準備を行う	①ICTを教育活動で効果的に活用する。 ②新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、できるだけ学校行事等の体験活動を行う。	①関連する項目の教員の自己評価において、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②感染拡大状況を踏まえ、適時判断し、できるだけ学校行事等が実施できたか。	①教室内に設置されたプロジェクターを活用し、日常的にICTを活用した。子どもに応じたスイッチの活用が進んだ。関連項目の教員自己評価の肯定的回答100% ②感染症対策を行いながら、3年振りに、全修学旅行と全宿泊学習を実施できた。学校行事の保護者等の参観も緩和できた。	A	・市教委の委嘱を受けた学校課題研究がまとめた年となるため、その研究成果を踏まえて、教育活動の充実を図る。 ・知的障害教育部門高等部が令和5年4月からスタートするため、知的障害教育部門高等部の教育活動の充実を図る。	・1人1台端末やプロジェクターを様々な場面で活用しているところが素晴らしい。 ・ICTの研究を学校全体で取り組んでいる。今後もタブレットやアプリの活用を充実させてほしい。
2	安心・安全 (現状) ○学校全体で事故防止に努め、ヒヤリハット事案を情報共有した。新型コロナウイルス感染症防止対策では、テレビ会議システムを活用し、家庭訪問を電話面談に変更した。(課題) ○引き続き、安心・安全で健康な生活を送れるように、教育体制と環境の整備、新型コロナウイルス感染症防止対策に努めていく必要がある。	・リスクについて未然防止を行う。 ・新型コロナウイルス感染症防止対策に努める。	①ヒヤリハットやちょっと気になる事案の情報共有を行う。 ②日常的な感染防止対策と徹底しながら、感染拡大状況を踏まえて適時判断し、できる限りの学びができるようにしていく。	①ヒヤリハットやちょっと気になる事案の情報共有をすることができたか。 ②保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①ヒヤリハットの情報共有に加え、今年度は、朝集でちょっと気になる事案(問題は発生していないが、リスクが想定されるものへの対応)についても情報共有した。 ②日常的な感染症防止対策を継続するとともに、屋内運動場に印をつけ、密にならない工夫をして、全校児童生徒が集まる教育活動を再開した。交流及び共同学習も再開できた。関連項目の保護者評価の肯定的な回答100%	A	・引き続き、ヒヤリハットや想定されるリスクを情報共有することで、事故の未然防止を図る ・引き続き、新型コロナウイルス感染症等の防止対策を行いながらも、集団での学習や、校外での学習を実施できるようにしていく。	・ヒヤリハットを活用して、小さなことでも情報共有ができています。 ・子どもたちが行動する前の声かけ等の確認は、今後も大切である。 ・近隣の道路で自動車と自転車の事故があった。危険箇所として教職員にも知らせてほしい。 ・居住地校との直接交流の回数を2回、3回と増やしてほしい。
3	開かれた学校づくり (現状) ○昨年度、学校運営協議会(コミュニティスクール)準備会を立ち上げた。新型コロナウイルス感染症対策で、ICTを活用し、保護者に運動会やひまわり祭のライブ配信を行った。(課題) ○新型コロナウイルス感染症防止対策のため、第2回準備会が紙面開催となった。目指す児童生徒像の共有と学校・保護者・地域等関係機関の取組を明確にする必要がある。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、地域等との交流に取り組んでいない状況がある。	・学校運営協議会でビジョンを共有し、連携・協働について考える。 ・学校の取組や特別支援教育についての情報発信に努める。	①学校運営協議会で熟議を行い、ビジョンを共有し、連携・協働について考える。 ②各種通信やHP等で、学校の教育活動等の取組について、情報発信する。 ③特別支援学校のセンター的機能を発揮し、特別支援教育に関する情報の発信を行う。	①学校運営協議会での共有ビジョンや連携・協働内容について、様々な情報ツールで教職員・保護者・関係者に周知できたか。 ②保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ③特別支援学校のセンター的機能について、市立小・中学校等に情報発信できたか。	①学校運営協議会で熟議を行い、「子どもたちの関わりを豊かにするために」というテーマで、連携・協働し、挨拶運動や作品展等の新たな関りをつくることができた。その内容を学校日より・HPで周知した。 ②学部日より、学校日より、HPで本校の教育活動について情報発信した。関連項目の保護者評価の肯定的な回答100% ③特別支援学校のセンター的機能の案内を新たに作成し、市立学校への配付やHPで情報発信した。支援件数が約3倍に増加した。	A	・引き続き、「子どもたちの関わりを豊かにするために」をテーマに、学校・保護者・地域・関係機関が協働できるようにする ・引き続き、学校の情報発信に努め、特別支援学校のセンター的機能を充実させ、地域貢献を行う。	・生徒の職業体験は来年度も受け入れていきたい。 ・サマーフェスティバル等の学校行事の際には、地域として協力していきたい。 ・育成会による挨拶運動では、子どもたちに声を掛けることでも元気をもらえた。これからも継続していきたい。
4	教職員の資質向上 (現状) ○学校課題研究の主題を「12年間を見据えた系統的・継続的な指導の充実」とし、ICTの活用にあらずまず取り組んでみようという考えで、教員が自走する研究に取り組んだ。(課題) ○学校課題研究をさらに推進するために、教育活動でICTの具体的な活用に取り組む必要がある。	・自ら特別支援教育の専門性向上に努め学び続ける教員の育成	①自走する研究体制で、教員が主体的に学校研究課題に取り組む。 ②教職員一人ひとりが、自身の特別支援教育の専門性の状態について把握し、強みを発揮し、主体的に専門性向上に努める。	①ICTの効果的な活用方法を教員間で共有することができたか。 ②特別支援教育の専門性の状態を把握することができたか。	①学校課題研究において、ICT活用事例を共有したり、ICTを活用した授業研究を行ったりした。市教育研究会研修発表大会にて発表し、参加者と協議することで充実を図った。 ②教員が、特別支援教育の専門性の状態を把握するシート記入することで、自身が専門性の状況を自己理解できるようにし、主体的に、今後の専門性向上について考えられるようにした。	A	・肢体不自由教育部門と知的障害教育部門の併置校になるため、教員が、肢体不自由と知的障害の2つの専門性をもてるようにしていく。	・専門性向上シートは、自分の成長を蓄積でき、教員のモチベーションにもつながるいい取組である。 ・保護者アンケート・教職員アンケートともに、全ての項目において素晴らしい結果である。引き続き頑張ってもらいたい。